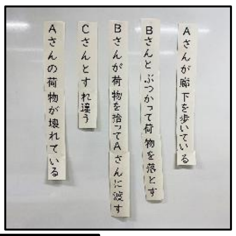
高等部　国語科　ー題材の実践と振り返り

授業づくりの工程

- 前題材までに到達している実態を把握
- 子どもに望む姿を想定
- 指導内容の決定（研究生産物を基に）
- 学習指導要領の指導内容から段階を決定
- 題材目標の決定
- 教材の設定
- 題材設定の立場記述
- 題材計画構想
- 授業構想シートを活用
- 本時案作成
- 題材開始
- **R研で毎時間の授業の評価・改善**
- 題材終了
- 観点別評価の実施

【R研】
国語・算数の授業実施日に行う、授業の評価や改善について話し合う場

事柄短冊



実践事例

授業者：播磨久美子

指導内容：聞くこと・話すこと　中学部2段階

教材と仕組み：『高校生は見た！』・・動画を見た後、相手の時間の有無や、経緯の把握状況に応じた話の構成について友だちと話し合い、決めた構成で話す。話し手と聞き手は入れ替わりながら取り組む

題材目標

知・技：　時間がない相手に自分が見た出来事を説明するとき、『見たことシート』を手がかりに、中心となる事柄とそれに起因する事柄の構成で簡潔に話す

思・判・表：　『高校生は見た！』で相手の時間の有無に応じて自分が見た出来事を説明するとき、一番伝えたい事を考え、話す事柄を判断し、中心となる事柄と起因する事柄の構成で話す

学び：　ことばがもつよさに気づくとともに、国語を大切にして、思いや考えを伝える

評価規準

知・技：　相手に話の内容を伝えるために必要な事柄を選び、話の中心となる事柄とその理由を入れた構成で、「〇〇なので●●です」などと話す

思・判・表：　相手に時間があるときは、中心となる事柄とそれに起因する事柄の他に、説明に必要な視点を入れた構成で「◎◎は〇〇なので、●●です」などと話す
相手に時間がないときには、中心となる事柄と起因する事柄のみの構成で「〇〇なので●●です」などと簡潔に話す

学び：　知識及び技能を活用して考え、判断したり、日常生活で活用できる場面を考えたりする

三観点	評価
知識及び技能	時間がない相手に話の内容をわかりやすく伝えるために、「〇〇先生が紙袋を置いてボールを運んだから、紙袋をなくしました」と話の中心となる事柄とその理由を入れて話すことができた。
思考力・判断力・表現力等	相手に時間があるときには、中心となる事柄とそれに起因する事柄のほかに、説明に必要な視点を入れた構成で話すことができた。時間がないときには、原因となる事柄と結末を伝えることができるが、結末のみを話すことや、起因する原因に短い視点を一つ程度足して話すこともあった。
主体的に学習に取り組む態度	話し合いで決めた「話すポイント」をもとに、授業の中では時系列で詳しく話したり、関係する事柄のみを話したり、結末と原因の構成で話したりするなど、知識を活用する姿が見られた。日常生活では、教師が「話すポイント」の話をすると、意識して話す様子が見られる。

教具の工夫①　動画の内容(事柄)を可視化して提示

望む姿	意図と働きかけ	結果
結末にあたる事柄と、それに起因する事柄を判断して、簡潔に話してほしい(相手が事柄の経緯を知らず、時間がないとき)	事柄同士の関係を判断しやすいように、出来事を事柄ごとに分けた『事柄短冊』を提示した ・廊下を歩く ・〇さんとぶつかる ・物を落とす ・△さんとすれ違う ・物が壊れている　など	・事柄短冊をもとに原因となる事柄を考えたときに、ぶつかったこと、落としたことなどのようにどちらが原因となる事柄か迷う姿が見られた ・事柄短冊があれば話せるが、事柄短冊がないと動画の出来事をどのようにことばで表現すればよいかわからない様子が見られた

改善内容とその結果

・「結末にあたる事柄」と「直接の原因」となる事柄のつながりを見直し、共通理解した。
例：「ぶつかった」→壊れた△　「落とした」→壊れた〇
すると、直接の原因となる事柄が判断できるようになった。
・①「見たことシート」②「事柄短冊」の順に手がかりを減らしていった。はじめは戸惑っていたが、自分のことばで相手に伝えたり、友だちの話を聞いて内容を判断したりする中で、事柄短冊なしでも話ができるようになった。

教具の工夫②　みんなのはなシートで、意見を集約

望む姿	意図と働きかけ	結果	改善内容とその結果
話の構成に必要な事柄とそうでない事柄を判断し、理由を加えて話すことを構成してほしい	考えを整理するために、『みんなのはなシート』中で、事柄短冊を分けながら話に必要な事柄とそうでない事柄を分別し、理由と合わせて提示する	・話し合いの内容が可視化でき、グループみんなで結論が出せたが、生徒によって発言回数や内容に差があった ・事柄短冊の大きさや提示するペンの色など、見やすくしたり、操作しやすくしたりするための工夫が必要だった	・話し合いの中で、教師が生徒の実態に応じて質問の仕方を変えたり、発言のタイミングを伝えたりすると、グループ全員が発言できるようになった ・事柄短冊の大きさを、操作しやすいサイズに替え、出た意見を青字で色分けして提示すると、見やすくなり、話し合いの中での活用がスムーズになった

次題材に向けて

本グループは、生徒の日常生活の様子から、「聞くこと・話すこと」に関する課題はまだ多くあり、引き続き指導していく必要がある。次回、同じ領域を扱う題材に取り組む際には、今回の授業のポイントを活かし、ことばを可視化して提示したり、グループの友だちと話し合いをしたりする活動を学習の中に取り入れていくことが効果的と考えられる。また、今回の学習をもとにして、「場の状況」や「相手の人数」「報告の目的」など、場面を具体的にして課題を設定し、応用できる場面を増やしていけるように学習を進めていきたい。